岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール　大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】
以下のAの漢詩とBの文章を読んで後の問に答えなさい。

A

閑居少鄰竝　草徑入荒園
鳥宿池中樹　僧■月下門
過橋分野色　移石動雲根
暫去還来此　幽期不負言

B

賈島挙に赴きて京に至り、驢に騎りて詩を賦し、「僧は推す月下の門」の句を得たり。推を改めて敲と作さんと欲す。手を引きて推敲の勢いを作すも、未だ決せず。覚えず大尹韓愈に衝たる。乃ち具に言ふ。愈曰はく、「敲の字佳し」と。遂に轡を並べて詩を論ずること之を久しくす。

問1　Aの漢詩の形式を答えなさい。
問2　文章Bは、Aの詩についての逸話です。Bを参考にAの■に適切な漢字を入れなさい。

豆知識 雑学コラム

言葉の情景を考えてみよう

今日のテーマは「推敲」です。昔、唐の詩人である賈島が、自分の作品の一句「僧は推す月下の門」を「僧は敲く月下の門」に改めるかどうかを考えているうちに、韓愈の通りかかるのに行き当たった。その韓愈の教えによって「推」を「敲」の字に改めたという故事から「推敲」は文章の言葉を吟味してより良いものにすること、文章を見直すことという意味の言葉ですね。韓愈のアドバイスは「推す」より「敲く」が良いというものでしたが、皆さんは「推す」と「敲く」のどちらがいいと思いますか。それを考えるために詩の中身を少し見てみましょう。

まず、「閑居少鄰竝　草徑入荒園」は「近隣に家がほとんどないような寂しい家の草が生い茂り荒れている庭を入っていく」という意味です。この部分から僧が訪ねた家が立派な家ではなく、ひっそりとした家であることが想像できます。次に「推す」は家の人の許可を得ずに積極的に家に入ろうとする様子であるのに対して、「敲く」は家の人に入っていいかの許可を取る様子が想像できます。

私としては草が生い茂るひっそりとした家であれば、一度、門を敲き「ごめんください。いらっしゃいますか」と尋ねる方が自然ではないかなと考え、「敲く」の方がいいと思います。

使われている言葉を吟味して、この表現より別の表現がいいのではないかと考えるのも詩の楽しみ方の一つです。皆さんも「推す」が表す情景、「敲く」が表す情景を思い浮かべながら「推敲」してみてはどうでしょうか。

【解答】
問1　五言律詩　　問2　敲